

## 古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問二九（出典：『伊勢物語』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

昔、左格助（体修）おほいまうぎみ尊（作し大臣）過去・終の大臣格助（体修）おほいまうぎみ尊（作し大臣）過去・終いまそがりけり。賀茂川のほとりに格助（主格）、六条わたり格助（副）に、家を格助（副）いとおもしろく造りて住み給ひけり。十月の晦日格助（主格）がた、菊の花移ろひ盛りなる格助（主格）に、紅葉の千種格助（主格）に見ゆる折、親王たち格助（主格）おはしまさせ尊（作し親王）使役・用て、夜ひと夜、酒飲みし遊サ変・用（カ四・用）びて、夜明けもてゆくほどカ四・体に、この殿のおもしろきを褒むる歌詠む。そこにありける格助（ラ変）用過去・用乞食翁、板敷の下カ四・用（カ四・用）に這ひありきて、人にマ四・未使役・用（タ下二・用）みな詠ませ果マ四・已完了・体てて詠める。

塩竈カ四・用（カ四・用）にいつか来カ四・用（カ四・用）にカ四・用（カ四・用）けむ朝なカ四・用（カ四・用）ぎに釣カ四・用（カ四・用）する船はここにカ四・用（カ四・用）寄カ四・用（カ四・用）らなむカ四・用（カ四・用）となむ詠みけるは、陸奥の国カ四・用（カ四・用）に行きたりけるカ四・用（カ四・用）に、あやしくおもしろき所々多かりけり。我が格助（体修）みかど六十余国カ四・用（カ四・用）のなかに、塩竈といふ所カ四・用（カ四・用）に似カ四・用（カ四・用）たる所なかりけり。さればなむ、かの翁カ四・用（カ四・用）、さらにここをめでカ四・用（カ四・用）て、「塩竈カ四・用（カ四・用）にいつか来カ四・用（カ四・用）にカ四・用（カ四・用）けむ」と詠めりける。

◎現代語訳（『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）